

TTC ゆった〜り山行実施記録表 2023年4月13日 YM (1/5)

山行名	美濃・尾張・三河の名城と桜名所めぐりウォーキング [愛知県・岐阜県]					
実施日	令和5年4月02日(日)~03日(月) 1泊2日 14人乗ハイエース利用					
天候/参加人員	天候:5/02:曇り/5/03 晴、レベル:★ 参加者:申込13名/実施13名(男3名/女10名)					
パーティスタッフ	省略					
参加メンバ	省略					
費用	25,900円(交通費¥11,016+宿泊費¥11,904+入園料・飲物代・通信費等¥2,918+カンパ金¥62)					
一人当たり:	25,900円					
カンパ金:810円	<p>交通費:(a)共通交通費 ハイエースレンタル料(@17710x2日)¥35420、燃料代(軽油)(@145x(380+420)/8)¥14,500、中型車高速道利用料金①厚木⇒岡崎¥6850、②岡崎⇒小牧東¥2180、③小牧東⇒岐阜各務原¥1730、④小牧⇒厚木¥8360)¥19,220、ドライブ謝礼(@20000x2+宿泊加算2000+距離加算1000+早朝加算¥2000)¥45,000、駐車料金(①岡崎¥660、②明治村¥1000、③岐阜公園¥0、根尾谷¥400、⑤谷汲山¥500、⑥犬山城¥300)¥2860、ドライブ宿泊費¥11,904/共通交通費合計¥128,904/13人⇒一人当たり¥9,916、(b)岐阜金華山ロープウェイ往復(@1100x13人)¥14,300/交通費総計(a)+(b)¥143,204/13人⇒一人当たり@11,016</p> <p>(c)宿泊代(長良川温泉「鶴匠の家すぎ山」)[@14,300x10人+@13,200x4人+入湯税@150x14人)¥197,900-宿泊支援割(@2840x11人)¥31,240]/(c)宿泊代総計¥166,660(含ドライブ宿泊費)⇒一人当り@11,904、(d)入園料・飲物代金・通信費等のその他の費用: 岡崎城(@250x13人)¥3250、博物館明治村+犬山城共通入場券(シニア割@2000x13人)¥26,000、岐阜城入館料(70歳以上無料/70歳未満@200x2人)¥400、夕食時飲物代:(ビール・ソフトドリンク等)¥6,280、通信費¥2,000/(d)入館料・飲物代・その他の費用合計:¥37,930/一人当たり@2,918</p> <p>集金¥336,700(@25,900x13人)-総費用¥335,890((a)+(b)+(c)+(d))=残金¥810(カンパ金)</p>					
	4/02(日)			4/03(月)		
所要時間	岡崎公園	明治村	岐阜公園	薄墨桜	谷汲山+道の駅	犬山城
ガイドブック	—					
計画(行動時間)	~1:30	~2:25	~1:35	~2:10	~1:10	~1:00
実行(行動時間)	~1:25	~2:30	~1:40	~1:05	1:02+0:40	~1:21
	歩行数: 4/02:~16,000歩 4/03:~12,000歩					
コースタイム						
◆4/02(日) 天候:曇のち晴(厚木~岡崎公園~博物館明治村~岐阜公園~岐阜城~長良川温泉「鶴匠の家すぎ山」)						
2人 1人 1人 2人 4人 3人 東名道/新東名/東名道						
始発 鷲尾=(荻野新宿・及川中原・林)=本厚木旧ヨカ前=厚木 IC=東名厚木バス停==駿河湾沼津==浜松 SA==岡崎 IC==						
5:00 5:28 6:23-6:43 8:07-8:23 9:14						
(下車・公園内散策・天守閣・まるや八丁味噌屋Pまでウォーキング 1:25) 東名/中央道						
==岡崎公園前---岡崎城---まるや八丁味噌---同左予約駐車場==岡崎 IC==守山 PA==小牧東 IC==明治村北口P---						
9:25 10:20 10:30-10:45 10:50 11:00 11:31-11:46 11:57 12:13						
(昼食・村内ウォーキング 2:30) 中央道/名神/東海北陸道 (駐車場探し~20分) 徒歩 20分 で(徒歩・岐阜城見学~30分)						
博物館明治村---北口P==小牧東 IC==岐阜各務原 IC==岐阜公園鏡岩P---ロープウェイ山麓駅~~山頂駅---岐阜城---						
14:45 14:58 15:28 15:50-16:18 16:40 16:45 16:25-17:00						
(乗車 20分待ち) 徒歩~20分						
---ロープウェイ山頂駅~~山麓駅---鏡岩P==長良川温泉「鶴匠の家すぎ山」(泊) 夕食 19:15~20:30						
17:15-17:30 17:36 17:57 18:03						
◆4/03(月) 天候:晴(長良川温泉~根尾谷淡墨桜~谷汲山華厳寺~道の駅織部の里~犬山城~厚木)						
朝食 7:30~ (1:05) (1:02) (昼食・買い物 0:40) (1:21) 名神/東名/新東名 (夕食タイム 0:25)						
長良川温泉==根尾谷淡墨桜==谷汲山華厳寺==道の駅織部の里もとす==犬山城==小牧 IC==岡崎 SA==浜松 SA==						
8:22 9:33-10:38 11:09-12:11 12:23-13:03 14:30-15:51 16:15 16:54-17:27 18:15-18:40						
新東名/東名道						
==駿河湾沼津 SA==東名厚木バス停==厚木 IC==本厚木駅前==(林・及川中原・荻野新宿経由)==鷲尾(終点)						
20:13-20:39 21:26 21:30 21:35 21:55頃						
コースの概要、特記事項、反省事項等						(2/5)

◆**計画立案まで**:シニアメンバから、犬山城と博物館明治村に行きたいとのリクエストがあった。日帰りは無理な場所なので、桜の時期に1泊2日行程で、美濃・尾張・三河の日本の桜名所100選2カ所を含む、桜の名所6カ所と日本百名城3カ所の観桜&名城巡りウォーキングを立案した。当初案では、桜開花時期を平年より5日早く開花した昨年並みと予想し、4/4-4/5としたが、2月初旬発表の愛知・岐阜地方の桜開花時期は、いずれの予報機関とも、平年並みとの発表であったことから、実施時期を4/9-4/10に5日ほど遅らせて、参加者を募集したところ、16名のメンバの参加希望があった。そこで、16名全員が参加できるよう、マイクロバスに変更して、詳細行程表を作成した。しかし、2月下旬になると、桜開花予報が、東京では、平年より10日早い史上最速の3/14に。愛知・岐阜は、平年並みから、8日早い3/16~3/17頃開花と、大幅に前倒しになった。ソメイヨシノは、2/1以降の最高気温の累計値が600℃に達すると、開花するという経験値(予測精度±3日)があるといい、2月に入ってからの全国各地の最高気温が20℃越えの暖かい日が続いたため、開花予想日が、史上最速日まで、早まったという。そこで、急遽、宿泊の予約がまだ可能な、2つの実施前倒し案を示して、13名のメンバの都合を聞いたところ、大多数のメンバが、折角訪ねるのなら、桜の見頃の時期が良いとの意向が示され、4/2(日)-4/3(月)変更案が、参加可能13名(同不可3名)と、参加できるメンバが最多だったことから、前記日程に変更することにし、直ちに宿泊先の予約変更手続きを実施して、12畳和室3室と8畳和室2室/14名の宿泊を何とか確保することができた。日程変更で、参加できなくなってしまった3名のメンバには、大変申し訳ないことをしてしまったが、事情を説明して、ご了解いただいた。

詳細行程表を作成する段階で、現地に問い合わせたり、現地情報に明るい方からアドバイス頂いたりした中で、①4/1(土)-4/2(日)は4年ぶりに開催される犬山祭の当日で、犬山城~犬山市中心街付近は、数十万人の人出で車では近づけない。同様に、②根尾谷淡墨桜訪問予定の4/2(日)は、2~3時間の駐車場空き待ちが予想されるので、樽見鉄道でアクセスするか、平日訪問に変更する必要がある。③桜祭り期間中の岡崎公園付近の駐車場は、すべてNET事前予約制となり、普通車より一回り大きい、車長5.4x車幅1.9x車高2.3mの14人乗ハイエスコミュタが駐車できる駐車場を確保するのも苦労した。それらの現地情報に基づいて、土日の混雑が予想される犬山城と根尾谷淡墨桜訪問を4/3(月)に変更する等の訪問先とそのルート的大幅変更を行う等、実施日直前まで、何度も行程を見直して、詳細行程表確定までに、大変な労力を要した。

◆**4/02(日)**(天候:曇のち晴/訪問先:岡崎公園⇒博物館明治村⇒岐阜公園・金華山・岐阜城⇒長良川温泉泊)

早朝5:00AM、始発の鳶尾を出発し、途中5カ所でメンバをpick-upして、厚木ICから東名高速道に入り、岡崎ICに向かった。最大乗車定員14名を乗せてのハイエスは、ブレーキの利きが悪い(制動距離が長い)というドライバの指摘を受け、その対応策として、十分な車間距離をとり、制限速度100km/h区間では~80km/h、新東名の120km/h区間では~100km/hで走行し、1.5時間走行毎に休憩取得を守るため、途中、駿河湾沼津SAと浜松SAの2カ所で15~20分の休憩を取るなど、ドライバと助手席に座ったナビゲータのCLとが、常に連携して安全運転最優先で目的地に向かった。

岡崎ICから岡崎市街に入り、国道1号線を西に2km進むと、目的地の岡崎公園入口に到着。ここでメンバ13人が下車。ドライバには、事前にNET予約してあった、1km西のまるや八丁味噌店駐車場に車を留め置き、岡崎公園見学の約1.5時間、予約済み駐車場でゆっくり休憩をとっていただくようお願いした。

約30年前に新築された立派な大手門(旧大手門は約1km北の浄瑠璃寺付近にあった)を潜り、旧二の丸跡に建つ徳川家康の銅像等を見学しながら本丸に進み、この地で誕生した家康東照権現と57回戦って一度も負けたことがないという徳川四天王の豪勇「本田忠勝」(後に子孫が岡崎城主になった)を祀った龍城神社に参拝し、その奥に建つ、岡崎城天守閣に入場して、展示資料や天守閣最上階から、360度の大展望を楽しんだ。

当初計画にあった、現在放映中のNHK大河ドラマ「どうする家康」にちなんだテーマ館の見学は時間が押していることをメンバに説明して、割愛させていただいた。5万石藤棚を右に見ながら、内堀の外に出て、菅生川右岸の石垣の堤上と広い川幅の対岸の堤上に続く、満開のソメイヨシノ並木の景観をしばし眺め、西側のお堀「伊賀川」の両岸にも見事に咲き誇る桜並木を愛でながら、竹千代橋を渡り、往時の面影を残す竹千代通りを西進して、車が待つまるや八丁味噌駐車場に向かった。1300年代創業のまるや八丁味噌の味噌蔵には、12歳の日吉丸(後の秀吉)と後に徳島城主となる蜂須賀小六との矢作川での出会いと、そのあと味噌蔵に盗みに入って咎められた日吉丸が機転を利かして、井戸に味噌熟成用重し石を投げ入れて、難を逃れたという逸話が伝わる「石投げの井戸」が現存する。見学させてほしいとお願いしてみたが、見学は30分毎とのことで、時間が合わず断念して、次の訪問地、犬山市の博物館明治村に向かった。この岡崎の地で誕生した家康が織田家に2年間、その後、今川家に約10年間人質となり、桶狭間の戦い以後、織田信長の後ろ盾を得て、この岡崎城を本拠地にして、三河・遠江国を平定し、やがて天下統一に至る出発点となった、岡崎城(日本百名城)を、日本の桜名所100選指定の800本の満開の桜花でピンクに染まるベストシーズンに訪問できたのはラッキーだった。

岡崎ICから東名道を北上して中央道小牧東ICに向かったが車が蛇行して揺れが激しいことから、ドライバに事情を聞いたところ、メンバを下ろした後、ドライバー一人で、約1km先の待機指定場所の駐車場に向かったが、案内してあった「きりり通り」に入る一つ手前の交差点を左折して道迷いしてしまい、目的地を見つけるのに1時間を要してしまい、休憩するどころか、疲れ切ってしまったとのことだった。事前に駐車場の写真や現地の地図で、駐車場までのルートを十分説明したつもりであったが、花見の車で混雑する初訪問の市街地をドライバー一人で、(3/5)

行かせてしまったCLの判断が甘かった。メンバ全員揃って駐車場まで行き、ここから徒歩 10 分の距離にある岡崎公園に歩いて行けば、ドライバを疲労・困窮させてしまうような今回の事態にはならなかったのにと後悔した。

緊急事態に対応するため、大型運転免許を持つ ST 氏の申し出を受け、守口 PA から明治村駐車場までの約 30 分間、ST 氏にハイエースの運転をお願いした。ドライバには、明治村滞在中の 2.5 時間、車内で十分な睡眠と休憩を取るようお願いして、明治村北口ゲートから入場して、博物館明治村のウォーキングを開始した。入場すると、一際鮮やかな赤紫色の花を見事に咲かせたミツバツツジの群落に出会い、一斉に歓声が挙がった。村内に約 1000 本の桜のうち、この時期に見頃を迎えるソメイヨシノ、枝垂桜、山桜の花を目当てに訪れたが、桜に出会う前に、予想もしていなかったミツバツツジの群落に出会い、強烈なパンチを受けた。その後も、村内のあちこちに群生するミツバツツジや山際の林間に群生するカタクリの花にも出会った。

入場して最初に出会う建物「旧帝国ホテル中央玄関」(大正 12 年 F.ロイド・ライトによって設計・建築された登録有形文化財)の内部を見学した後、玄関前の芝生広場で昼食を摂ってから、村内ウォーキングを開始。5 丁目からスタート、2 丁目までの主要な建物を見学したが、時間切れで 1 丁目まではたどり着けなかった。立ち寄った主な建物は、金沢や前橋の監獄雑居房、菊の世酒造酒蔵、聖ザビエル天主堂、芝居小屋「呉服座」(重文)、小泉八雲宅、鉄道寮新橋工場・機械館(重文指定の紡績機や工作機械等)、宇治山田郵便局(重文)、幸田露伴邸、西園寺公望「座漁荘」、六郷川鉄橋etc.村内には、旧式の蒸気機関車、旧京都市電、レトロな村営バスが行きかう。帰路は、東側に広がる広大なダム湖「入鹿池」畔を辿り、ソメイヨシノは盛りを過ぎていたが、今を盛りに咲き誇る山桜、紅枝垂桜、コブシの花々を愛で、後ろ髪を引かれる思いを残しながら、予定の 2.5 時間で村内ウォーキングを切り上げた。

本日最後の訪問地「岐阜公園・金華山・岐阜城」には、犬山祭りで、大渋滞が想定される犬山市街を避け、小牧東 IC に戻って、中央道/名神道/東海北陸道と南に迂回し、岐阜各務原 IC から、岐阜公園に向かった。目的地付近に到着し、金華山ロープウェイ山麓駅に一番近い大宮駐車場を目指したが、桜祭り期間中の日曜日とあって、一帯の道路は、臨時の一方通行や進入禁止の措置が取られ、やっとたどり着いた駐車場は満車で入れず、付近の一方通行の道路を2回りして、ロープウェイ乗場から一番遠い長良川左岸河原の「鏡岩緑地無料駐車場」を、~20 分を要してようやく探し当て、車を留め置くことができた。

日曜日の 4:30pm 過ぎ、上りロープウェイは待時間なしで乗車できたが、下りは 40 分待ちの混雑だという。ロープウェイ山麓駅ホームのすぐ隣に、発掘調査中の信長居館跡や岐阜城遺構「千畳敷跡」が見られた。4 分ほどの乗車で、乗車待ちの行列が続く山頂駅に到着。「天下第一の門」を潜って、馬場跡等の急坂を登ってゆくと、「二の丸門」となり、「岐阜城」と刻まれた石碑の上に岐阜城天守閣が仰ぎ見られた。さらに展望のよい岩尾根を登ってゆくと、標高 329m の金華山頂に聳える 4 層の天守閣に到着する。早速、最上階に登り、360 度大展望を楽しんだ。日本有数の広さを誇る濃尾平野のほぼ中心に聳える独立峰「金華山」山頂に立つ岐阜城天守は、美濃国内だけではなく、尾張犬山城からも望むことができる、岐阜市のランドマークだ。天気が良ければ、北アルプスの山並みと御岳山が見えるというが、この日は曇天で眺望が今一つで、その姿は確認できなかった。眼下に長良川が流れ、対岸に今夜の宿「鶴匠の家すぎ山」の建物や、岐阜市から大垣市、名古屋方面へと市街地が広がる美濃平野が一望できた。

斎藤道三が井之口の稲葉山に築いた難攻不落の「稲葉山城」、息子の代になってから、重臣たちを籠絡して落城させ、1567 年以降、地名を岐阜、山名を金華山、城名を岐阜城に改め、安土城に移るまでの間、天下統一を目指す信長の居城となり、城下には楽市楽座が立ち並び、岐阜の町は大いに賑わったという。1601 年、関ヶ原の戦いで勝利した家康が、岐阜城を廃城とし、尾張徳川藩領となった以降は、岐阜城跡一帯を立ち入り禁止区域にして尾張藩が厳重に管理したという。しかし、1910 年、金華山山頂に復興天守が建てられたが、1943 年に焼失。現在の 2 代目復興天守は 1957 年に、鉄筋コンクリート造で再建されたものだという。

20 分待ちの下りロープウェイに乗車して、岐阜公園に降り立ち、鏡岩駐車場で待機するドライバに電話して、長良川堤外道路上で pick-up してもらって、本日の宿泊先の長良川温泉「鶴匠の家すぎ山」に到着したのは、計画より約 1 時間遅れの 6:00pm 頃になってしまった。想定外の駐車場探しの 20 分と下りロープウェイ乗車待ちの 20 分のタイムロスが痛かった。公園内と長良川畔の約 300 本のソメイヨシノは残念ながら、すでに葉桜状態であったが、まだまだ見事な花をつけた山桜や紅枝垂桜が公園内のあちこちに見られた。特に、日中友好公園内の池畔で出会った、鮮やかなピンク色の花を満載した枝を水面に垂らす紅枝垂桜の見事な美しさに、メンバから驚嘆の声があがった。麓から復興天守に登る 10 本の登山道が通じており、いずれのコースも 30~60 分で登れるという。時間が許せば、TTCらしく歩いて登りたかった。また、岐阜城跡の発掘によって大量に出土した遺構や出土品、関連資料を展示する博物館や、古い町並みが残る川原町界隈も訪ね歩いてみたかった。機会があれば、5/11 に解禁になる、千年以上の歴史ある長良川鵜飼を、名物のアユ料理を食べながら、船上から楽しめたらと思った。

鶴匠の家すぎ山で、チェックイン手続きを始めたところ、4/01 以降延長の「全国旅行支援割を適用できるので、3 回以上ワクチン接種証明証と身分証明書を見せてください。」との案内があった。政府発表によれば、3/31 現在、旅行支援の予算が余っている県で、4/1 から予算が使い切るまで期間までで、3/16 以前に宿泊予約した分は対象外とのことであった。岐阜県のホームページを見ても、4/1 以降の宿泊に旅行支援割引 20%(max3000 円)を適用するとの案内は一切なく、今回の予約が、3/3 であること、4/01 に予約の最終確認の電話をした時も、(4/5) 延長旅行支援割適用可能との案内は一切なかったので、割引はないものだ判断し、メンバにもワクチン接種証明

証を持参するよう案内しなかった。ワクチン証明証は写真でもよいということになり、14名中11人が20%の宿泊割引と2000円のお買い物クーポンがもらえることになった。夕食時間が迫ってきたので、残りの手続きは夕食後に行うことにして、くじ引きで決めた部屋割り(12畳和室3室:4・3・3人、8畳和室2室:2・2人)に従って、長良川と金華山が見渡せる5部屋に分散。黒褐色をした含鉄単純温泉に浸かって、汗と疲れを洗い流してから、7:15PMからの和会席の夕食に臨んだ。先付から始まり、お造、飛騨牛の小鍋、揚物、椀物、焼物等、10数種類の料理が次々に運ばれてきた。5月から提供開始の名物のアユ料理がなかったのが、少し残念だったが、さすが料理自慢の和風旅館。提供された料理の品々は、見た目、味、量、提供のタイミング、仲居さんの対応等々のいずれをとってもハイクオリティで、満腹・満足したとの高評価を頂き、この宿を選んだCLとして、一安心した。

今回全国支援割適用で、割引してもらった3万円余は、これまでの会計処理手順に従って、14人全員分の宿泊料金支払い合計額を1/14で均等割りする。また、別途交付される一人2000円のお買い物クーポンは、ワクチン接種証明証を提出した11人のメンバにそれぞれ使っていただくことで、メンバ全員の了解を頂いた。

夕食後、CLと11人のメンバがロビーに集まり、旅館従業員の指導を受けながら、各メンバのスマホに、【①岐阜県独自の旅行支援割アプリをQAコードを読み込んで、インストール、②そのアプリを立ち上げ、旅館が個人ごとに発行したクーポンカードのQRコードを読み込んで、2000円分のポイントを岐阜県独自アプリの電子payにチャージ、③お買い物する際は、スマホの当該の電子pay画面を立ち上げ、買い物金額を入力して、その場で支払い決済処理を行い、販売先店員に決済処理が確実に完了したことを確認してもらって完了。】の手順となる。スマホの電子決済アプリを利用するのが、はじめての経験というメンバが多く、専用アプリのインストールや2000円分のポイントチャージ、そのポイントを使用した決済処理と、一連の作業に、四苦八苦ししながら、11人全員セットアップに成功し、旅館の売店で、お土産購入にポイント全額を使い切ったようだ。

◆4/3(月)(天候:晴/訪問先:長良川温泉⇒根尾谷淡墨桜⇒谷汲山華厳寺⇒道の駅織部⇒犬山城⇒厚木市)

大半のメンバは早寝・熟睡し、今朝は早起きして、温泉に浸かったり、長良川河畔を散歩する等、ゆっくりくつろぐメンバが目立った。昨日疲れが目立ったドライバのIさんも、25年来のベテランメンバのフォローを受け、十分熟睡したという。7:30AMからの和食朝飯をおいしくいただき、宿を8:20AMに出発して、日本三大桜根尾谷淡墨桜に向かった。ナビが指示するルートを進むと、途中、岐阜大学キャンパスを一周する不可解な道案内もあったが、新緑に染まるのどかな山里の道を走り、交通渋滞に遭うこともなく、すんなりと目的地の駐車場に到着した。現地観光案内所に聞いた情報では、見頃の時期の週末は、駐車場2~3時間待ちが当たり前で、平日であっても、天気が良いれば、花見の車で相当混雑して、駐車場待ちが発生するとの説明であった。出発前日4/1に確認した現地ライブカメラの映像では、3/23に開花した根尾谷淡墨桜には、まだ満開の花が咲いていたのだが・・・、今日の根尾谷駐車場が、予想に反して異常に閑散としているのを気にしながら、薄墨桜公園に行ってみると、樹齢1500年超の淡墨桜とその後ろに控える100年超の2代目淡墨桜の2本とも、すっかり花を落とし、涼しげな姿。どうやら私の悪い予感が的中してしまったようだ。現地の方に尋ねてみたところ、昨夜かなり強い降雨があって、一夜にして、桜が散ってしまったとのこと。昨夜の雨が、まさに「花散らしの雨」になってしまったようだ。当初の訪問日を4/2(日)としていたが、週末の混雑を避けるために1日遅らせたことが、裏目に出てしまったようだ。同行メンバから、花はなくても日本三大桜の中で、この淡墨桜の樹高、枝の広がり最大で、そのスケールの大きさが容易に理解できたことと慰めていただいたのが、せめてもの救いだった。今年の淡墨桜の開花は、平年より5日早く咲いた昨年より9日早いこれまでの2020年の最速記録に並ぶ、3/23だったが、この年の桜吹雪は4/13と遅く、開花してから散るまで22日も花をつけていた。過去34年間で、桜吹雪が最速だったのは、3/24に開花した2021年の4/5(開花期間13日間)だったが、3/23に開花した今年も、開花してから最高気温が20℃超えの日が続いたこともあり、開花10日後の4/1と、過去34年間で、最速で散ってしまった。このところの地球温暖化の影響が顕著化して、開花時期が極端に前倒ししてきており、また、桜吹雪の時期も大きく変動してきており、花見の最適日を予測・設定するのが、相当難しくなっていることを痛感している。

広い芝生広場の真ん中に咲く淡墨桜は散ってしまっていたが、広場のあちこちに点在する紅枝垂桜や山桜は、まだきれいな花を咲かせていた。また、山際に植樹されている淡墨桜の若木には、まだまだ、清楚なヒガンサクラの花を残しているのをあちこちで見かけた。公園北側の展望台や駐車場からは、北西側に、まだ真っ白に雪化粧した山並みが見渡せた。その中で、最も目立つピークが、越前大野市と美濃本巣市の県境に聳える両白山地(東の白山~西の能郷白山)の西の雄峰、標高1617mの200名山「能郷白山」だ。深田久弥が百名山を選定する際、この能郷白山と荒島岳(1524m)のどちらを百名山に選ぶか迷った末、彼の生まれ故郷の大聖寺町(現加賀市)から望める荒島岳を選んだという逸話が残っている名山で、TTCでも一度は登ってみたい山の一つだ。

根尾谷淡墨桜滞在を早々に切り上げ、西濃の桜の名所「谷汲山華厳寺」に向かった。華厳寺は、西国33カ所観音霊場の33番札所の結願寺であり、~1200年前創建の名刹で、参拝道の門前に300本のソメイヨシノの並木が立ち並び、岐阜市内より、少し遅れて見頃を迎える桜の名所として人気がある。TTCゆった〜り山行で、西国三十三観音霊場を訪ねるのは、今回の華厳寺で10寺目。桜吹雪舞う門前商店街をそぞろ歩き、仁王門を潜って(5/5)華厳寺本堂(本尊は50年毎に開帳する秘仏「大悲十一面観音像」)を参拝後、西国33観音霊場巡りが終了したことを報告する、最奥の「結願堂」と法被を納める「笈厨堂」などを参拝して回った。

この後、「道の駅織部の里もとす」に立ち寄り、屋外の休憩卓で、道の駅で仕入れた弁当や、持ち込んだおにぎりや途中の立ち寄り先で買い求めたみたらし団子、店頭で販売していたソフトクリーム等を食べ、昼食を兼ねた休憩タイムとした。美濃織部は、室町時代～戦国時代ごろ、茶の湯を愛する千利休や戦国大名等により、織部の茶碗として珍重された織部焼の産地だったが、江戸時代以降急速にすたれ、現在道の駅に並べられて販売されている茶碗は、いずれも安価な二流品ばかりだという。

この後、岐阜市から国道 21 号線を東に進み、美濃各務原市から、木曾川を渡り、最後の訪問地尾張犬山城」に向かった。葉桜になりかけ、桜吹雪が舞う、木曾川左岸の桜並木の下を犬山城天守閣が聳える、犬山城正門付近まで車を走らせ、正門前の駐車場に車を止めおき、犬山城天守閣の見学に向かった。3/31(金)の夜から 4/2(日)までの 2.5 日間、城近くの針綱神社の例祭である「犬山祭り」が 4 年ぶりに開催され、名鉄犬山駅から犬山城付近の犬山市中心街は、14 台のからくり山車が繰り出し、延べ 50 万にのぼる人出で賑わったという。祭りが終わった翌日の犬山城界隈は、城見物に訪れる観光客で賑わっていた。

最後の訪問地犬山城に向かう途中、4/2 に博物館明治村の入場口で、明治村と犬山城の共通入場券を格安のシニア割で購入し、明治村の入場券は、その場で使用したが、犬山城の入場券は明日使用するので、各自無くさないよう大事に保管しておいてねと、お願いして各自に手渡してあった犬山城入場券を、「各自所在を確認して、すぐに取り出せるように、準備しておいてね。」と案内したところ……CLが危惧したとおり、13 人のメンバ中、3 人のメンバは、犬山城の入場券を探し当てることできなかった。どうしたものかと思案していたところ、会計係の U さんが、昨日 13 人分の一人 2000 円の共通入場券を購入する際、TTC宛の領収証をもらっているの、犬山城の入場口で、これを提示して、入場券を紛失 3 名分の犬山城入場料を再度支払わなくて済むよう交渉してみると申し出てくれたので、お願いした。最終的に、明治村の営業主体は名鉄、犬山城の管理主体は、元犬山城主成瀬家と犬山市が共同して作った財団法人白帝文庫と、異なっているため、後者が、前者に支払った証拠書類の領収書のコピーを取って、前者に 3 人分の犬山城入場料を請求するというので、入場券を紛失した 3 名のメンバも、新規に入場料を払うことなく、そのまま無事入場できることで、一件落着となった。会計係の U さんの機転の利いた粘り強い交渉が実り、全員拍手喝采！

国宝犬山城は、織田信長の叔父「信康」が 1537 年に、尾張と美濃の国を分ける木曾川左岸高台の要害の地に建てた尾張の北を守る城。信長が、本能寺の変で自害したのち、秀吉と家康の争いの舞台になったが、徳川の時代になると、尾張徳川家の目付家老の職に就いた、家康の三河以来の家臣の一人、成瀬家が明治維新まで、犬山城主を勤めてきたという。明治維新以後、天守閣を除いた城は総べて解体され、天守閣は明治政府が管理するものになったという。しかし、明治 20 年代に発生した濃尾大地震で、大きな損傷を受け、解体廃城の憂き目に遭いそうになったが、成瀬家と地元犬山町人が修理存続を嘆願した結果、明治政府から成瀬家に払い下げとなり、成瀬家と犬山町人が浄財を出し合って修理し、以後、個人所有の国宝指定の天守閣として、存続してきたが、最近になって、公益財団法人犬山城白帝文庫が設立され、城は同文庫の所有となり、犬山市が管理する体制で、保存管理されている。2019～2020 年にかけて、建物全体の変遷過程等が詳細に調べられた結果、現存する天守閣は、1585 年に建設されたとみられ、現存する国宝の天守の 5 城の中で、最古のものであると判定されている。

天守最上階にのぼると、眼下に木曾川の流れが望め、左の高みには、昨日訪ねた金華山頂に聳える岐阜城の目視できた。犬山城訪問で、国宝五城(姫路城、彦根城、松江城、松本城、犬山城)全部を訪問できたと喜ぶメンバが多くいた。まだ桜が咲き残る城内の桜花を近景に、天守閣を背景にして、アングルを色々変えながら、城の写真を撮り、最後の訪問地「国宝犬山城天守閣」訪問を無事終了し、名神高速小牧 IC から、東名道/新東名道に入り、岡崎 SA、浜松 SA、相模湾沼津 SA と、1 時間走行ごとに、15-20 分の休憩を取りながら、安全第一に徹し、予定通り、本厚木駅前に 9:30PM ごろ無事帰着することができた。

◆**反省事項** ・桜の開花時期予想日が、3 月以降、どんどん前倒し修正される状況に翻弄され、実施時期を 2 度も変更し、その都度、宿泊予約を変更したり、行程を見直すなどの対応に追われ、詳細計画作成に長時間にわたり、多大な労力を要した。それにもかかわらず、日本三大桜の一つ「根尾谷淡墨桜」訪問では、前夜の花散らし雨で、桜が散ってしまうという、タッチの差で淡墨桜を見損なってしまった。地球温暖化の影響なのだろうか、今年の根尾谷淡墨桜は、史上最速で咲き始め、史上最速で散ってしまった。その他の桜名所では、ソメイヨシノは葉桜になっていても、山桜や紅しだれ、予想外のミツバツツジに出会うなど、それぞれの場所で印象に残る花々に出会った。また、日本百名城 3 城の見学も予定通りできたが、全体的に駆け足訪問となってしまった。

・イベント最中の都市部のハイエースの駐車場確保に大変苦労した。マイクロバス利用とした場合、駐車場確保が相当難しい。臨時に交通規制がなされて、カーナビ設定のみで目的地に到着できない等の不具合を多く経験した。ドライバー一人で駐車場に先行してもらった岡崎では、目的地がなかなか見つからず、その結果、ドライバーが休憩出来ない非常事態を発生させてしまった。都市部の分かりにくいコース走行の場合、ドライバー一人での運転を避け、ナビゲータが助手席に常時同乗して、カーナビに頼るだけでなく、正確な道案内をアシストする重要性を痛感した。